

FLYING

FISH

47

2011 SUMMER

[ フライイング  
フィッシュ ]



INTERVIEW

渡辺菊真准教授

小さな町から  
宇宙が見える!?  
空想こそが未来を動かすカギ

NEWS

磨け!国際感覚とコミュニケーション力  
ヨーロッパ研修

平成22年度卒業式・学位授与式  
社会貢献をめざして

平成23年度入学式  
新しい第一歩!

学生たちの日々

河川敷を一斉清掃/練習開始!  
よさこい踊り子隊/学生主催の  
チャリティコンサート/ネット張  
りとラス巻きに参加/こうち春  
花まつりで応援ソングを披露/  
若手奨励賞を受賞!/KUT  
オープンキャンパスのお知らせ

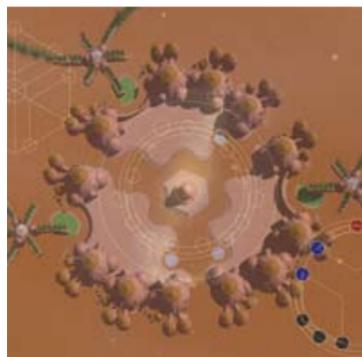
表紙のコトバ=これは何だ?!

持ち前の空想力と行動力で、その活動をはるか  
かなたの世界へつなげていく渡辺先生。そんな  
渡辺先生のとりにある一風変わったこの物体  
の正体は!?



ビジョンを描き、共有すること  
物事は大きく動き始める

# 小さな町から宇宙が見える!? 空想こそが未来を動かすカギ



渡辺先生の土囊建築は上の絵のようなシュミレーションから始まる。このような全体構想を描くことで、実際の建築が出来るのだ。



## ビジョンを共有することの大切さ

その言葉の先には一体どんな未来が待っているのだろう。丁寧かつ真摯に言葉を選んで話す、渡辺先生の一言一言には、目には見えないはるか遠くの宇宙が感じられるのだ。

これまでインドやアフガン、そしてウガンダと途上国を飛び回り、現地で地元の人たちとともに汗を流しながら一つの建築物を造り上げてきた渡辺先生は、いわば異色の建築家だ。そのきっかけはあまりにも突然に訪れた。大学院を出て、奈良にある建築事務所「修行」を始めた



渡辺先生はフットワーク軽く国内外を飛び回っている。2007年には奈良で「環境造形システム研究所」を立ち上げた。高知に来て3年足らずだが、様々なプロジェクトで新しい風を巻き起こし、昨年には卒業生と同研究所の分室を大学近くに開設するなど、さらに活動の幅を広げている。

2001年4月、所長から突然「アメリカで土囊建築を習得して、インドに行つてほしい」と言われたというのだ。「土囊は一応知っていましたが、土囊建築

という言葉を知るのはその時が初めて。でも目の前のことはとにかく何でもやろうと思っていたので、すぐに覚悟を決めました。

土囊建築とは、土囊に現地の土を詰めて、それを積み上げてつくる建築のこと。熟練技術を要せず施工が簡単で、資材も安価に現地調達でき、耐震性にも優れるなどの利点から被災地のシェルターや環境負荷の小さな建築として近年注目を集めている工法だ。2000年に起こったインド西部地震の復興支援として、所長の親友である地元の大学教授から土囊建築の話が持ち上がり、その先導役として若くエネルギー溢れる渡辺先生に白羽の矢が立ったというわけだ。

現地では数々のハプニングに見舞われながらもともに派遣された日本人学生との共同作業でなんとか復興モデル住居が完成。地元のNGO代表にお披露目をしたのだが、「この建物には未来を感じることができない」と切り捨てられ、絶望の縁に立たされる。そんな時、ふと思ひ立ち、所長の助言で作成し持参していた村落の全体構想図を祈るような気持ちで見せたところ、皆の表情が生き生きと一変したという。ビジョンを描き共有することの大切さ。その経験が大きな柱となり、渡辺先生は今や日本の土囊建築のパイオニアとなっている。

学生時代は仮想のプロジェクトを立ち上げ、空想の世界に没頭していたという渡辺先生。「現実のシビアなプロジェクトの中で空想的



な絵を示すことは、一見無意味のように見えますが、実際は物事が大きく動き出すきっかけになると、世界中の現場経験を経てわかったんです。現地の人々の心の深層に触れるようなビジョンを示すのが建築家の役目——そんな所長の台詞を身を持って実感したという。

## 空想力こそ大きな力になる

渡辺先生は昨年と今年の二度にわたり、土佐山田町を舞台に「仮想地域未来計画」をテーマとした建築展示会を学生とともにに行った。学生の手によってうまれた身近な町の「仮想空間」は県内外の建築関係者の注目を集めた。

きっかけは着任した2009年の7月に一人の学生が教員室を訪ねて来たこと。「何か新しいプロジェクトを自分たちでやりたい」とアイデアを求めてきたのだ。そんな彼に「身近な場所で何か壮大な提案をするのはどうか」と返したところ、後日話を聞いた他の学生たちも含めて大盛り上がりになったという。「近隣にベンチを設置するなど、すぐに地域に役立つようなことをするなら地域に腰を落ち着けて地道にやるべき。大学時代というのは一番自由な発想が出来る時なので、ものすごく身近なところで、ものすごく大きいあり得ないことを考えよう」と。これには自身の学生時代の経験によることも大きい。そして、院生を中心に総勢約20名でプロジェクトが動き始めた。

まずは町中を歩き回り、地形を精査し、町の風土や歴史をふまえた上で、自由に想像の翼を広げていった。旧市街や農村は守り、かつて農地や緑地だった場所は当時の緑あふれる風景を起点に、独自の町並みを創造するという方向性が定まり、100年前と現在の町のカタチが重なる、どこか懐かしい風景が作り上げられた。展示会では長さ3mを超える全体計画図が掲げられ、巨大な模型が力強い存在感を放った。

今年3月には神様や先祖の霊を敬い、神々によりそう暮らしをしてきた神母ノ木地区と山田島地区を舞台に、その風景を未来へ継承するための建築提案を行い、確かな手応えを得た。都会の大学の真似事ではなく、自分たちのフィールドを持つことで得られる愛着からうまれた提案の数々は、見る人の心に訴えかけ、実感を伴った迫力へとつながった。このことが学生たちに言い知れない達成感と自信をもたらしたことは言うまでもない。

## 流れているから見えること

渡辺先生の周りにはいつも多くの学生たちが集まってくる。そこには、どんな時も本気で学生に向き合う体当たりな姿勢がある。その最たるものが、独自に編み出したという設計トレーニング法「即日設計」だ。これは5時間という制限時間で、何をつくるかを考え、スケッチと



高橋格・渡辺菊眞「Good House」プロジェクト 2010-11年、主催：金沢21世紀美術館（画像提供：同館）  
昨秋、金沢21世紀美術館のプロジェットの 일환で学生たちと土囊で家をつかった。作業時は必ずトレードマークの赤いTシャツと軍パンを着用する。



今年3月に行われた展示会「楽園 神母ノ木山田島」の提案の一つ、片地小学校のリニューアル案の模型。その敷地周辺を100年前のような丘の状態に戻したいと、地下化した建物にすることで景観に配慮している。

模型を仕上げるというもの。ここまでなら珍しくないのかもしれないが、渡辺流の特徴は先生自身がまったく同じ条件の中、設計し模型もつくるといふところにある。「学生時代、生意気だったんですが、先生に対して本当に勝負したら僕の方が勝つんじゃないかと思っていた時期がありまして(笑)。あの時の思いは学生たちにもあるかもしれないと思ったので、絶対一緒にやろうと。負ける訳にはいけないので、本気で臨みますよ」。そうすることで学生たちも確実に力がついているという。精一杯身体を張ってなお、誠実な心意気が学生たちを奮起させている。

そんな渡辺先生の出身は奈良県だが、両親は秋田に福井と決まった故郷がないため、自身を「流れの建築家」と称している。「今いる場所は大事にしたいので、行った所は故郷のように思おうと。でも、すぐに土地に根ざしたことを提案するというのはやはり違う気がするの、流れているからこそ見えることを残して行けたらと思います。誰も考えないような一枚の絵がある土地に舞い降りて来て、それがちよつと違う未来につながっていく。それこそが目指すところですね」。

どんな土地でも常に俯瞰して物事を見極め、自らの役割を果たしていく。その一歩引いた目線がその土地の未来の種をつくっていくのだ。「その場所にとって相応しい形でありながら、地球スケールにも対応した大きな宇宙みたいなものが内包されるような建築のあり方を考えたいと常々思っています。いわば“地域・地球主義”な建築。そういうことが大事で、実践を重ねながらできていければいいですね」。

どこにいても変わらず、渡辺先生の目線はその町を通してはるか宇宙にまで到達する。小さな町の壮大な未来を描くこと。それは同時に、自ら大きな夢を持つことの大切さを教えてくれているような気がするのだ。

## 現場ではかならず軍パン！ 尊敬する石工さんからの頂き物

渡辺先生が手にしているのはヨルダンの現場で出会い、すぐに意気投合した石工の親方にいただいたという軍物パンツ。その親方がとても神秘的に魅力ある方なので、かくありたいという思いもあり、土囊を積むといった現場では必ず着用している。実は上下でいただいたのだが、上着は惜しくもヨルダンに忘れて来てしまったそう(笑)。



渡辺菊眞

# FF TOPICS

エフエフトピックス



イギリス・ロンドン バッキンガム宮殿の前で

## TOPIC | 01

### 磨け!国際感覚とコミュニケーションカ ヨーロッパ研修

学部生10名が3月5日(土)から15日(火)の10日間にかけて、ヨーロッパ研修に参加しました。英語の学習意欲を高めることを目的としたもので、今回はTOEIC500点程度以上の取得者と応募資格が設けられ、小論文、面接試験により選ばれた学生が参加しました。

ドイツでは、次世代薄型テレビの研究所や世界最先端の自動車工場を見学しました。シュツットガルト大学の研究所では、大学内の設備にもかかわらず、実用レベルの液晶パネルを試作できるという大手メーカー並みの装置群に一同驚いた様子でした。また、自動車工場では一般向けには行っていない製造工場を特別に見学させてもらい、その歴史も伺い知ることができたようです。その後、研究所の学生との交流会が催され、日本の文化や生活、卒業研究などについて紹介した後、バーベキューを楽しみながら交流しました。



左/最先端の設備と技術を実感。  
下/交流会では研修初日ということもあり、学生たちは言いたいことを表現できずに困る場面が多々ありましたが、ドイツの学生が積極的に話しかけて盛り上げてくれたおかげで、打ち解けた気分を味わうことができたようです。



期間 2011.3.5[sat]-15[tue]

研修地 シュツットガルト(ドイツ)、カーディフ(英国ウェールズ)、オックスフォード、ロンドン(英国)

訪問先 シュツットガルト大学(ドイツ)、メルセデスベンツ工場(ドイツ)、グラモーガン大学、カーディフ大学(英国ウェールズ)、オックスフォード大学(英国)

英国ウェールズのグラモーガン大学では外国人学生向けの英語導入教育を体験受講しました。先生が言葉をうまく引き出してくれたことで、学生たちは安心して英語を発言することができるようになり、非常に有意義な時間となったようです。その後、浴衣の試着やインスタント味噌汁の試食、筆ペンで習字体験等、日本文化を紹介し、大いに盛り上がりました。



シュツットガルト大学の火力発電所を運用する燃焼発電機研究所。15万kWの実用火力発電プラントを運用しながら、燃焼炎の効率改善について研究されています。

歴史あるオックスフォード大学の見学も行い、現地の学生に案内して頂いたことで、単なる観光ガイドツアーとは異なり、学生の視点で街と大学を眺めることができました。滞在中には東日本大震災の凄惨なニュース映像を現地のテレビで知ることとなり、学生が地元のインターネットテレビに取材を受け、英国内に配信されました。帰路の安全確保を心配するとともに友人・知人の無事を祈り、自分の果すべき役割を深く考えさせられる機会になったと同時に、英語力やプレゼンテーション力の向上という本来の目的についても大きな成果が得られた研修となりました。

## Photo report



日本や、高知、龍馬についての紹介を英語でプレゼンテーションする研修生。緊張しながらも、しっかりとコミュニケーションができていました。



学期末の土曜日で見学や食堂の体験利用ができない大学が多い中、オックスフォード大学の見学では、現地の学生による工夫されたプログラムのおかげで充実した時間となりました。



東日本大震災について地元のインターネットテレビ局から取材を受けました。代表して2人の学生がしっかりと英語で受け答えし、当日夜のインターネットニュースで英国内に配信されました。



## TOPIC | 02

### 平成22年度卒業式・学位授与式 社会への貢献をめざして

柔らかな春の日差しがのぞいた3月18日(金)、平成22年度卒業式・学位授与式が挙行政され、工学部301名、大学院修士課程109名・博士後期課程9名の計419名の卒業生が大学生活に別れを告げ、新たなスタートを切りました。

式典に先立ち、この度の大規模な地震で被災された方々に哀悼の意を表して、1分間の黙祷が捧げられました。

佐久間学長からは、「日本の社会には視野の広さを育てる土壌が少なく、多様性を認める文化が十分に育っているとは言えません。この種の能力を高めるための努力は、個人に委ねられたままです。若

い皆さん方が、これらの点を心に留めて、将来進むべき道を見出して下さることを期待します」とはなむけの言葉が贈られました。その式辞を受け、卒業生・修了生代表の西澤和展さん(物質・環境システム工学科)からは「高知工科大学で得た知識と経験、そしてこれまで過ごしてきた日々を誇りと自信を持ち、広く社会に貢献していきたい」との決意に満ちた謝辞が述べられました。



4年間ありがとう!

## TOPIC | 03

### 平成23年度入学式 新しい第一歩、可能性は無限大

桜の咲き誇る4月5日(火)、本学講堂において平成23年度入学式が挙行政されました。新入生への告辞の中で佐久間学長は、「日本は東日本大震災による未曾有の災害に遭遇し、このような状況の中で、将来に明るい展望を描くことは大変難しいことですが、国民が一丸となってこの難局に対処するという心構えが必須です。新入生の皆さんには、これからの大学生活を通して自己の能力を高めるとともに、将来の日本を支えるという心構えを持っていただきたい。」と期待を込めたメッセージを送りました。



今年度は、学士課程493名、修士・博士後期課程106名が新たな一歩を踏み出しました。有意義な大学生活を送ってほしいと思います。



NEW LIFE START!!



## ゴミのない物部川をめざして 河川敷を一齐清掃しました

2月26日(土)、学生12名と教職員及びその家族10名が物部川河川敷の清掃活動に参加しました。「ごみのない物部川をつくる連絡会(11団体)」が主催したもので、春めいた陽気のなか、約150名の参加者がゴミ拾いと分別作業に汗を流しました。

分別後のゴミ袋の数は約30袋!改めて放置されたゴミの多さに驚くと同時に、清掃後の河川敷の清々しさに今日一日の成果を見ることができました。作業終了後は、手づくりの鮎湯を、ゴミのない物部川を見ながらおいしくいただきました。

本学は、地域に開かれた大学として、今後もこうした活動に積極的に参加していきます。



子供から大人まで、ごみのない物部川を目指し、清掃に取り組みました。

## シカの食害から自然を守ろう ネット張りとなら巻きに参加

4月24日(日)、学生と教職員72名が徳島県と高知県の県境にある三嶺から白髪山周辺でシカの食害を防止するためのネット張りとなら巻きを行いました。

作業実施に先立ち、高知大学名誉教授の依光良三先生から三嶺付近の自然環境が激変した様子やシカの食害の状況等について講演をいただき、学生たちはこれらの作業の意義を改めて認識し、当日に臨みました。

ほとんどの学生たちは初めての経験にもかかわらず、ネットやポールを持って厳しい山の斜面

を登り、山頂近くで懸命に作業にあたりました。下山後は皆一様に充実感に溢れた表情が印象的でした。この作業で直ちにシカの食害に効果があるわけではありませんが、こうした積み重ねが、自然の生態系を回復させる一助になっていくことでしょう。



厳しい斜面での初めての作業でしたが、懸命に作業に取り組み充実した様子の学生たち。



## 結成15年目の夏本番に向けて 練習開始!よさこい踊り子隊

今年の高知工科大学よさこい踊り子隊のテーマは「楽感笑銘(らっかんしょうめい)」。結成15年目を迎えた今年は気持ちを新たに、「よさこい」を笑顔で楽しみたい、観る人に感動と笑顔を贈り高知工科大学の躍りを心に刻んでもらいたい、という思いを込めて踊ります。

8月6日(土)に開催される地元 香美市の「土佐山田まつり」を皮切りに、8月10日(火)・11日(水)の「第58回よさこい祭り」ではエネルギッシュな踊りを披露します。夏の本番に向けて6月13日から練習を開始しました。

当日はぜひ会場に足をお運びいただき、踊り子隊への応援をよろしくお願いします。



今年も情熱的な踊りで、元気と笑顔をみなさんに届けたいと思います。

## アカペラサークルKOCO'A こうち春花まつりで応援ソングを披露



会場ステージで応援ソングを披露するアカペラサークル KOCO'A のメンバーと、シンガーソングライターの堀内圭さん。

こうち春花まつり開催中の5月4日(水)、会場ステージにて、本学アカペラサークル「KOCO'A」が東日本大震災の被災者の皆さんや復興に励んでいる方々への応援ソングを披露しました。この応援ソング「笑顔の花」は、RKC放送がリスナーから一言応援メッセージを募集し、シンガーソングライターの堀内圭さんが作曲したものです。ステージでは堀内さんとのコラボレーションも見られました。

当日は見事な快晴で、親子連れやご年配の方など、たくさんの方に聴いていただきました。ステージ本番では、応援ソングの他に元気になれる曲を披露し、観客の皆さんも一緒に歌ったり、手拍子をしたりと、非常に盛り上がり、その模様はRKCラジオで生放送されました。ステージを通して、メンバーも音楽の力を再認識することができたようです。

## 音楽の力で被災地に笑顔届けたい 学生主催チャリティコンサート

2日間で約200名の方が足を運んでくださり、たくさんの義援金が集まりました。

「みんなの笑顔まちゆうき!」をスローガンに、学生有志による東日本大震災被災地支援チャリティコンサートが3月26日(土)、27日(日)に本学にて開催されました。

教職サークル「FIT」、吹奏楽部、アカペラサークル等に所属する学生たちの「普段練習している音楽や歌声で被災地の方々を励ませないか」という思いに端を発した今回のコンサートでは、FM岩手のご協力も得て、コンサートの模様や会場からのメッセージを、FM岩手をはじめ、東北のラジオ局で放送していただき、被災地の方へ届けられる予定です。学生たちの真摯な思いが多くの皆様に届くことを願うとともに、一日も早い復興を心よりお祈りしております。



お知らせ

## 高知工科大学 オープンキャンパス

今年もオープンキャンパスを開催します!当日は、おもしろ体験授業、研究室自由訪問、先輩が案内するキャンパス見学ツアー、入試・奨学金相談コーナーなどたくさんのイベントを準備しています。無料送迎バスも運行しますので、ぜひご利用下さい。

【とき】  
7月17日(日) 11:00~15:00  
KUTの学びを「広く」知ろう 研究室/体験授業/体験実験  
8月28日(日) 11:00~15:00  
KUTの学びを「深く」知ろう まるごと体験授業

無料送迎バス運行!!

大阪、姫路、岡山、倉敷、広島、福山の各地と高知工科大学を結ぶ無料送迎バスを運行します。  
※乗車には申込みが必要です。

¥0  
無料

ご連絡・お問い合わせは...

入試部 0887-57-2222  
http://www.kochi-tech.ac.jp/kut\_J/nyushi/ug/oc/oc.php

## 情報処理学会主催の研究会にて 若手奨励賞を受賞!!

3月10日(木)・11日(金)に開催された、情報処理学会 第186回計算機アーキテクチャ研究会において、宮元裕樹さん(大学院修士課程情報システム工学コース2年<当時>酒居敬一研究室)が若手奨励賞を受賞しました。

これは同研究会が主催あるいは共催する研究発表会における若手研究者(35歳以下)の発表から、特に優れた発表の登壇発表者を表彰し、着眼点の面白さや今後の展開への期待を評価するものです。今回は14件の発表のうち、2件の採択となりました。

<発表内容>  
「セマンティックファイルシステムのフレームワークの提案」

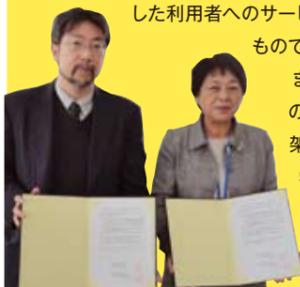
Excellent!!

news 1 利用者へのサービス向上を  
香美市図書館と協力体制強化へ

3月17日(木)、香美市教育委員会庁舎にて、香美市立図書館と本学附属情報図書館の間で今後の相互協力に関して協議し、香美市の時久恵子教育長と本学の篠森敬三館長により調印が行われました。

両図書館間の協力体制を整えることにより、双方の蔵書等の情報取得を容易にし、立地条件や専門性など互いの強みを活かした利用者へのサービスの向上と図書館活動の充実を目指すものです。

まず手始めに、本学から市立図書館へ図書  
の長期貸出が実施され、すでに173冊が配  
架されています。地域の皆様はもちろん、本  
学の学生・教職員及びご家族の皆様にも、  
ますますこの二つの図書館を有効活用し  
ていただけるよう努めていきます。



news 4 将来有望な若手研究者として  
劉助教が日本機械学会  
奨励賞を受賞

4月21日(木)に開催された日本機械学会第88期通常総会において、劉清助教(システム工学群)が日本機械学会奨励賞(研究)を受賞しました。

日本機械学会は、113年の伝統を持ち、総会員数37,000名を超える日本では最大級の学会であり、機械分野の多くの研究者が同学会に所属し、活動しています。

日本機械学会奨励賞(研究)は、極めて  
独創的な研究業績を挙げた、将来の  
日本機械学会を背負うことが期待され  
る若手研究者に与えられる非常に名誉  
ある賞で、年に1度、学会全体で20名  
が総会で表彰されます。



【研究名 人間の運動に関するウェアラブルなセンサシステムの研究】

news 5 Moodleの生みの親  
マーティン氏も来日  
Moodle Moot Japan 2011開催

2月22日(火)、23日(水)の2日間、本学において「Moodle Moot Japan 2011(第3回Moodleの教育者と開発者による研修会)」を開催しました。(主催:高知工科大学、共催:Jaltcall.org、JALT東四国)

このMoodleMoot(ムードル・ムート)とは、オープンソースの  
コース管理システム「MOODLE」に関する一連の発表やワーク  
ショップからなる研修会で、情報共有や知識を深めるために実施  
されているものです。

今回はMoodleの生みの親であるマーティン・ドゥギアマス氏が  
初来日。マーティン氏の講演を生で聴き、交流できるということも  
あり、全国から約180名の参加がありました。参加者らは  
マーティン氏の講演に興味深く耳を傾け、さらにワーク  
ショップなどを通じて交流を  
深めていたようです。



news 2 日本初の文部科学省認定プログラム  
国際建設プロジェクト  
マネジメントコース開講

2月28日(月)から3月25日(金)にかけて、本学及び本学東京  
キャンパスにおいて、短期セミナー「国際建設プロジェクトマネジ  
メントコース」が開講されました。

これは、国土交通省、電力企業、建設大手企業等の要請により実  
現し、国際建設プロジェクトマネジメントを学ぶ日本初の文部科学  
省認定プログラムです。社会システムマネジメントコースの主要科  
目を軸にし、国際事業展開に必要な人材の短期育成を目的として  
います。日本の建設産業が持つ特性を国際市場の実態と比較しな  
がら理解し、国際競争力の向上の基盤となるコスト管理、スケ  
ジュール管理、リスク管理、プロジェクトファイナンス等を体系的に  
捉えた「プロジェクトマネジメント技術」を学びます。

体系化されたプロジェクトマネジメント技術は、国際市場への展  
開だけではなく、透明性、公正性の向上を

求められている国内  
建設市場でも必要と  
なっており、今  
後の展開が期待さ  
れます。



news 6 正しい使い方を親子で学ぶ  
携帯電話教室を開催

携帯電話の正しい使い方や、災害時の家族との連絡方法等を学  
ぶ科学教室「親子で学ぼう!通信の未来と安全」を5月7日(土)、本  
学で開催しました。電子情報通信学会との共催で行ったもので、小  
中学生の親子14組33名にご参加いただきました。

NTTドコモのインストラクターから、ブログやメールによるトラブ  
ル事例が映像により紹介され、携帯電話を使う際に心がけるべき点  
をわかりやすく解説。長岡技術科学大学の山崎克之教授からは、各  
携帯通信会社が提供する災害用伝言板について「もしもの時のた  
めに、とにかく使ってみることが大切」とお話をいただきました。

また、無料でブログを作成できるサイトを使ったブログ教室も開  
催。皆さんが「やってみると簡単」と感じた様子で、参加した小学  
生からは「早く家に帰ってブログの更新がしたい」というコメントも。

この教室のコーディネーターを務めた福本昌弘教授(情報学群)は  
「小中学生が携帯電話を持つことに賛否はあると思いますが、正しい  
使い方について関心を持つ保護者が多いことに安心しました」と話  
し、今後もこのような教室の継続的な開催に意欲を見せていました。



news 7 「高知工科大学  
ラジオで  
オープンキャンパス」

大人から子供まで興味をもてる  
オープンキャンパスのような雰  
囲気で、県民の皆さまに高知工  
科大学についてより深くお伝え  
したいと考えています。

◎放送局  
RKC高知放送  
◎放送日時  
毎月第1・3水曜日 12:10~12:20  
(再放送)毎月第2・4土曜日 10:50~11:00  
※大学HPでも、放送番組を視聴いただけます。

本学のラジオ番組  
が始まりました!

news 3 科学技術分野での功績を高く評価  
文部科学大臣表彰トリプル受賞

平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰が4月11日発表となり、  
本学から3名が以下のとおり受賞しました。

篠森敬三 教授

・科学技術賞【開発部門】  
我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与  
し、実際に活用されている画期的な研究開発若  
しくは発明を行った者を対象として表彰

〈受賞業績名〉  
「カラーユニバーサルデザインのための  
色弱模擬フィルタの開発」

〈受賞者〉  
中内茂樹  
国立大学法人豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 教授  
(公立大学法人高知工科大学 情報学群 客員教授)  
篠森敬三  
公立大学法人高知工科大学 情報学群 教授  
加藤裕久  
伊藤光学工業株式会社 取締役 技術部ジェネラルマネージャー

山本哲也 教授

・科学技術賞【研究部門】  
我が国の科学技術の発展等に寄与する可  
能性の高い独創的な研究又は開発を行っ  
た者を対象として表彰

〈受賞業績名〉  
「液晶ディスプレイに実用可能な  
酸化亜鉛機能膜の開発研究」

〈受賞者〉  
山本哲也  
公立大学法人高知工科大学  
総合研究所マテリアルデザインセンター長 教授

宮崎真 准教授

・若手科学者賞  
萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度  
な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた  
40歳未満の若手研究者を対象として表彰

〈受賞業績名〉  
「身体知覚の時空間的適応性の研究」

〈受賞者〉  
宮崎 真  
公立大学法人高知工科大学 総合研究所 准教授

EXCELLENT!

KUT  
活動報告  
2011 spring-summer

news 8 IEEE国際会議「ICMSAO'11」にて  
竹田教授と白石助教、論文賞を受賞

4月20日(水)、IEEE(Institute of Electrical and Electronics  
Engineers)主催の国際会議「ICMSAO 2011-FOURTH  
INTERNATIONAL CONFERENCE ON MODELING,  
SIMULATION AND APPLIED OPTIMIZATION」において、白石  
優旗助教と竹田史章教授(共に地域連携機構 連携研究センター  
知的認識システム開発研究室)が論文賞(Best Paper Award)を  
受賞しました。

この賞は、学術的に意義高い研究論文に与えられるもので、知的  
認識システム開発研究室の研究テーマの1つである、青果物の外観  
検査選別装置の画像処理部分が高く評価されました。今回は300  
件の応募があり、うち260件が採択。うち4件が受賞しました。



【受賞論文名】  
Proposal of Whole Surface Inspection System by Simultaneous Six-  
image Capture of Prolate Spheroid-Shaped Fruit and Vegetables

news 9 市民向け公開シンポジウム  
「気候変動とその影響緩和策」開催

2月19日(土)、高知市文化プラザかるぼーとにおいて、気候変動  
とその影響緩和策に関するシンポジウムが開催されました。本学  
は東京大学と連携し、気候変動の解析や水資源の影響等について  
共同で研究を行っています。

このシンポジウムは四国4県で実施されており、行政や専門家と  
市民との対話を通じて、課題を解決する適応策を意志決定してい  
く「地域経営システム」を創造する社会実験の場としています。

地球温暖化と水循環の関わりが環境変化(風水害、水不足、水質  
変化)をもたらす仕組みや水を通じた地域の利害関係を市民の  
方々に説明し、専門家と市民の相互理解のプロセスと市民意識の  
変化をモニタリング・分析することで、気象学・土木工学・経済学・  
心理学・経営学などを統合した「新たな地域経営システム」を検証  
していこうというものです。

同イベントは毎年(5年間を予定)  
開催しながら、地域住民の方々に情  
報提供を行うとともに、ご意見や意  
識の変化等を研究活動に活かしてい  
きます。ぜひご参加ください。



講演を行う社会マネジメントシステム研  
究センター 那須清吾センター長

news 10 教職課程について  
お知らせ

平成23年度入学生より、高等学校教諭一種免許状(工業)・(理科)・(情報)、  
中学校教諭一種免許状(理科)の教職課程に加えて、高等学校教諭一種免  
許状(数学)、中学校教諭一種免許状(数学)が取得できるようになりました。

取得できる免許状	システム工学群	環境理工学群	情報学群
高等学校教諭 一種免許状	工業	○	○
	理科	○	○
	情報		○
中学校教諭 一種免許状	理科	○	○
	数学	○	○

# 平成23年度高知工科大学後援会総会

4月5日(火)、入学式終了後、本学講堂にて平成23年度高知工科大学後援会総会が開催されました。本学の富澤治教育本部長の挨拶の後、森木章人理事、山地和理事、東村孝将理事の退任に伴い、新役員に竹中治人氏、北川直徳氏、細川明子氏の3名が選任されました。議事では、平成22年度事業報告・決算報告及び平成23年度事業計画・予算についての審議が行われました。事業報告については、従来行っている学生の課外活動の支援や就職活動支援のほか、平成18年から行っている開学10周年記念事業の一環で、高知県が全国に先駆けて提唱している協働の森事業への支援を行ったことが報告されました。今年度も、引き続き学生の課外活動や就職活動への支援、地域交流事業等へ助成を行うことなどが承認されました。なお、平成21年度に完成しました大学応援歌は、総会にてCDが配布され、会の最後に披露されました。今後も様々な場面で演奏される予定です。平成22年度決算及び平成23年度予算は下記のとおりです。

### 平成22年度決算 (内は内訳額)

#### 《一般会計》 (歳入の部) (単位:円)

科目	予算	執行状況	増減	摘要
会費	25,382,000	24,632,000	750,000	50,000円×482名,38,000円×編入生14名
雑収入	150,000	2,395	147,605	預金利息等
その他収入	0	26,520	△ 26,520	電創旅費返金・関西交流会キャンセル返金
過年度収入	1,950,000	0	1,950,000	11~13期生未納者39名
特別会計繰入金	8,000,000	8,000,000	0	卒業記念事業費等
繰越金	4,152,117	4,152,117	0	
合計	39,634,117	36,813,032	2,821,085	

#### (歳出の部) (単位:円)

科目	予算	執行状況	増減	摘要
会議費	250,000	162,851	87,149	理事会等会議費(162,851)
事務費	415,000	328,495	86,505	印刷費(95,000)・郵送料(9,260)・手数料(37,485)・会費返還金(150,000)・その他(36,750)
課外活動助成金等	5,800,000	4,262,348	1,537,652	課外活動助成金(3,447,100)・課外活動特別助成金(765,248)・課外活動奨励補助(50,000)・大学間交流事業費(0)
施設・備品等整備費	1,500,000	948,188	551,812	行事務用品(0)・図書等整備支援費(399,563)・施設等整備費(548,625)
学園生活等支援事業費	2,420,000	1,612,527	807,473	学生サポート等支援費(424,800)・学生表彰等助成金(885,937)・地域交流事業助成金(301,790)
大学祭等助成金	2,350,000	1,905,610	444,390	新入生歓迎交流会等助成金(705,610)・大学祭実行委員会への助成金(800,000)・よさこい祭り参加経費助成金(400,000)
卒業記念事業費	9,300,000	8,851,250	448,750	卒業記念行事助成金(1,800,000)・卒業記念事業(200,000)・卒業記念品費(6,851,250)
就職先開拓費	1,000,000	425,485	574,515	就職活動等支援費(425,485)
特別会計繰出金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念行事経費・周年事業費等積立(15,000,000)
予備費	1,599,117	0	1,599,117	予備費(0)
合計	39,634,117	33,496,754	6,137,363	

一般会計繰越金 3,316,278

#### 《特別会計》 (歳入の部) (単位:円)

科目	予算	執行状況	増減	摘要
前年度繰越金	40,637,470	40,637,470	0	預金利息含む
雑収入	30,000	88,137	△ 58,137	定期預金利息
一般会計繰入金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念事業費、周年事業費等
合計	55,667,470	55,725,607	△ 58,137	

#### (歳出の部) (単位:円)

科目	予算	執行状況	増減	摘要
10周年事業費	800,000	800,000	0	協働の森事業
一般会計繰出金	8,000,000	8,000,000	0	卒業記念事業費
合計	8,800,000	8,800,000	0	

特別会計繰越金 46,925,607  
繰越総額 50,241,885



《協働の森》



《物部川清掃》



《よさこい祭り》

### ■後援会費のお知らせ

後援会は、保護者の皆様からの会費をもちまして、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援する事業を行っております。会費を納入されていない方が若干おいてになりますので、会費の納入について御協力をよろしく願いたします。会費は、学生活動(大学祭・クラブ活動・図書館書籍の整備など)や就職活動の支援、また、卒業記念事業として卒業記念品(卒業アルバム)の作成など、有意義に使わせていただいております。なお、兄弟姉妹で在学中の方は、あとで入学された方の会費の半額を返還しております。兄弟姉妹で在学中の方は、学生支援部(0887-53-1118)へご連絡ください。

### ■訂正とお詫び

※1)4月5日開催の総会資料では、予算書の繰越金決算額を誤って23年度の予算額3,316,278円と記載しておりました。正しくは4,152,117円となります。  
※2)また、事務費前年度決算額を手数料確定前の金額327,445円と記載しておりました。正しくは328,495円となります。訂正してお詫び申し上げます。

### 平成23年度予算 (内は内訳額)

#### 《一般会計》 (歳入の部) (単位:円)

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
会費	25,382,000	24,632,000	750,000	50,000円×497名,38,000円×編入生14名予定
雑収入	5,000	2,395	2,605	預金利息等
その他収入	0	26,520	△ 26,520	電創旅費返金他
過年度収入	2,200,000	0	2,200,000	12~14期生未納者44名
特別会計繰入金	8,000,000	8,000,000	0	卒業記念事業費等
繰越金	3,316,278	4,152,117	△ 835,839	※1
合計	38,903,278	36,813,032	2,090,246	

#### (歳出の部) (単位:円)

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
会議費	250,000	162,851	87,149	理事会等会議費
事務費	500,000	328,495	171,505	印刷費・郵送料・手数料・会費返還金・その他(※2)
課外活動助成金等	5,500,000	4,262,348	1,237,652	課外活動助成金・課外活動特別助成金・課外活動奨励補助・大学間交流事業費
施設・備品等整備費	1,500,000	948,188	551,812	行事務用品・図書等整備支援費・施設等整備費
学園生活等支援事業費	2,700,000	1,612,527	1,087,473	学生サポート等支援費・学生表彰等助成金・地域交流事業助成金
大学祭等助成金	2,350,000	1,905,610	444,390	新入生歓迎交流会等助成金・大学祭実行委員会への助成金・よさこい祭り参加経費助成金
卒業記念事業費	9,300,000	8,851,250	448,750	卒業記念行事助成金・卒業記念事業・卒業記念品費
就職先開拓費	1,000,000	425,485	574,515	就職活動等支援費
特別会計繰出金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念行事経費・周年事業費等積立
予備費	803,278	0	803,278	予備費
合計	38,903,278	33,496,754	5,406,524	

#### 《特別会計》 (歳入の部) (単位:円)

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
前年度繰越金	46,925,607	40,637,470	6,288,137	預金利息含む
雑収入	30,000	88,137	△ 58,137	定期預金利息
一般会計繰入金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念事業費、周年事業費等
合計	61,955,607	55,725,607	6,230,000	

#### (歳出の部) (単位:円)

科目	予算	前年度決算	増減	摘要
10周年事業費	800,000	800,000	△ 800,000	協働の森事業22年度にて完了
一般会計繰出金	8,000,000	8,000,000	0	卒業記念事業費
合計	8,800,000	8,800,000	△ 800,000	

# HOT NEWS 2011 KUT 情報局

平成22年度卒業式において各種表彰が行われました。※敬称略

Congratulations!

### 学長表彰 総合成績優秀者

物質・環境システム工学科	知能機械システム工学科	電子・光システム工学科	情報システム工学科	社会システム工学科
西澤 和展	渡辺 悠人	常石 佳奈	小松 佐典	山本 真弓

### 学長表彰 専門領域科目成績優秀者

物質・環境システム工学科	知能機械システム工学科	電子・光システム工学科	情報システム工学科	社会システム工学科
藤原 誠	渡辺 悠人	常石 佳奈	小松 佐典	廣井 華香
西澤 和展	戸田 直耕	陰山 和臣	菅 優也	野口 貴子
清遠 英志	吉村 昂泰	尾川 景子	彼末 和也	池澤 勇太
筒井 幸友	大畑 彰吾	丸岡 優大	傍士 竜百	射手 大河
鎌倉 昌士	黒岩 敬生	矢野 達彦	中野 友貴	小谷 慎吾
横山 和哉	仙石 敬範	中山 洋太郎	澳本 拓郎	片岡 慎
庄野 和孝	山内 大嗣	大塚 雅之	山崎 康生	須田 将康
河津 直紀	森 直也	小路 紘史	妻島 恵三	畠中 清加
戸田 達也	市原 哲也	坂本 俊輔	栗田 彩加	三松 元気
山上 哲也	万福 崇裕	平松 秀太	稲葉 海斗	山本 貴志

### 末松賞

物質・環境システム工学科	知能機械システム工学科	電子・光システム工学科	情報システム工学科	社会システム工学科
西澤 和展	渡辺 悠人	陰山 和臣	小松 佐典	小谷 慎吾
藤原 誠	戸田 直耕	丸岡 優大	菅 優也	田中 希枝
筒井 幸友	吉村 昂泰	石田 遼太	傍士 竜百	山本 貴志

### 学術研究奨励賞

修士課程	
物質・環境システム工学コース2年	高橋 和之
博士後期課程	
留学生コース3年	SUN Minghui
留学生コース3年	LI Chunguang

## 見たい! 聞きたい! 知りたい! 工科大あちこち探訪レポート



敷地内には子どもからお年寄りまでたくさんの方が集まります。

### 「開かれた大学」をつくらう!

まずは当時の学長や建築家の先生とともに、キャンパスの設計に携わった岡村理事長にお話を伺いました。現在の敷地はかつては林業試験場で、その樹木や土を利用して、キャンパスが作られています。設計は「開かれた大学」というコンセプトのもと行われ、塀をつくらず、学生と一般市民との交流



岡村理事長

次に、佐久間学長に大学のこれから、学生への想いについてお話を伺いました。学長は二三年前から学生生活に対する支援を強化

「心の豊かな学生」を育てるために...

佐久間学長「学生に望むことは『部分だけでなく、全体を見ること』、学校の勉強だけでなく、様々な人々と関わり、心の勉強をすること』『視野を広げること』。心の豊かな学生が育つことを切に願っています」とお話しいただきました。

次回もお楽しみに!

### 「開かれた大学」をつくらう!

それぞれの空間にさまざまな配慮がなされています。

「心の豊かな学生」を育てるために...

佐久間学長「学生に望むことは『部分だけでなく、全体を見ること』、学校の勉強だけでなく、様々な人々と関わり、心の勉強をすること』『視野を広げること』。心の豊かな学生が育つことを切に願っています」とお話しいただきました。

次回もお楽しみに!

KUT 学生特派員 特報 REPORT 07

また各学科、さらには先生同士の間にも壁がないようにと「複数対複数」というあり方を実現し、たくさんの方と議論できる「モンスペー」に先生に質問しやすい雰囲気、質問しやすいガラス張りの教室など、私たちがいろいろ

の場としました。また各学科、さらには先生同士の間にも壁がないようにと「複数対複数」というあり方を実現し、たくさんの方と議論できる「モンスペー」に先生に質問しやすい雰囲気、質問しやすいガラス張りの教室など、私たちがいろいろ

されています。メニューの改善をはじめ、サークル活動・海外研修・音楽コンサートなど、学生にとってベストな環境を日々追求されています。予算も成果や努力に応じて配分しているとのこと。

### REPORTERS 学生特派員

- 左から (寺原春菜さん) 環境理工学群2年
- (佐々木則子さん) 工学部 物質・環境システム工学科4年
- (平山桂子さん) マネジメント学部マネジメント学科4年



# まちの KUT 応援団 がんばらっちょね! 工科大①

Machi no KUT Ouen-Dan Report

私と香美市のつきあいは本学の開学（平成9年）の2年前から。大学の創設に携わり、地域の方々と交流がはじまりました。その間、開かれた大学として、大学の発展＝地域の発展との思いで、諸処のことに取り組んできましたが、白髪と薄くなった頭には勝てないと思う昨今...

今回のインタビューは、羨ましいくらい、いつまでも万年青年である門脇榎夫さん。地元香美市の市長であり、仕事だけでなくプライベートでも親しくさせて頂いています。

開学時からの高知工科大学を知るお一人で、今も多岐にわたって本学を応援して頂いています。今回は多忙な公務の合間を縫って、インタビューに応じていただきました。



今回のインタビュアー  
事務局統括本部長 浜田正彦

—— 本学は今年で設立15周年を迎えますが、開学時の思い出はありますか？

はや15年になっちゃうろうか。土佐山田町にとっては一番大きな出来事やった。田園地域のなかにある新斬で塀のない建物も、気に入っちゃう。当時はよその自治体から羨ましがられたもんよねえ(笑)。

—— 多くの学生が香美市で生活しています。今では新生生の4分の3が県外出身ですが、どのような印象をお持ちですか。

若い人あが町を歩いてくれるようになったことが、うれしいねえ。町全体が活性化されたと思う。地元土佐山田まつりでは、若い人あがよさこいを踊ってくれるき、華があらあねえ。学生らしいエネルギーな踊りを地元の人も喜んでくれちゃうと思う。大学祭にしても地元の刃物まつりと同時に開催しちゃう、他の町ではちょっと考えられんよねえ。学生と一緒に賑やかにやってくれることで、大学・鏡野公園の一角がお祭り広場になってきちゃあね。今では、どちらかが欠けても寂しいぐらいに定着しちゃう。

—— それから商工会のおばちゃんをはじめとする地域の皆さんが工科大生を応援してくれています。毎年、大学祭の行事などを通じて、餅つきをはじめとする出店など、ずっと協力をいただいています。一期生の入学式から、町の人に「ウェルカム工科大」をやって頂いて、また、一期生の卒業式から引き継がれている「えん」も学生と地域の皆さまとのコラボレーションで、交流させて頂き感謝しています。

## 「この町を第二のふるさととして 帰って来てくれたらうれしいねえ」

—— 香美市と大学の連携の中で、香美市から奨学金を頂いています。奨学生が地域の為に活躍してほしいと思っていますが、市長の思いをお聞かせください。

奨学金は昨年からはじめたがよねえ。学生の人たちに香美市として何が出来るろうか、という思いがずっとあったがよねえ。大きな金額ではないかもしれんけど、それによって、学生の人らが個人的にも団体としても、香美市のために活動してくれるひとつのきっかけになってもうたら...。学生さんは全国から来てくれちゃうろうきね、この町のことを広めてほしい。この町を第2のふるさととして想うてほしいし、卒業して県外に行っても、結婚して子供ができたならアンパンマンミュージアムにでも連れて行こうかねと町に帰ってきてくれたらうれしいねえ。この奨学金も、財政が許す限り続けていきたいと思うちゅう。



—— 大学としても、ボランティアなどの活動を行っています。市と連携して地域の為に活動することで、大学と地域の結びつきが強くなると思います。特に大学のそばを流れる物部川。川を通じて、山、森、海、里を学生が考える機会になるので、地域にある大学としても力を入れていきたいものです。

そういえば一度学生に講義をやったねえ。恥ずかしいけど(笑)。山、森、川の大事さ、海、人との関係の話をした。みんな真剣に話を聴いてくれた。継続的に物部川の清掃活動もやってくれよう。少ない人数ではなく、多くの人に参加してくれて、そらあ、うれしいことよね。

—— 今後も日本にないもの、時代のニーズに応じて、国際交流やスポーツなど様々な事にチャレンジしていきたいと思っていますが、本学や学生に期待することは何でしょうか？

まず、公立化したっていうのは市にとっても大きな変化やったね。工科大のチャレンジしていく意気込みは強く伝わってきゆう。田舎であるきに、していかなければならないし、田舎だからこそできることがある。一緒にやっていきたいし、そのチャレンジに答えられる市でありたいねえ。これからも工科大のことを応援していくきね!

門脇市長自らが生けたという「山あじさい」が、市長室に明るい雰囲気をつくり出していました。

### インタビューを終えて

今回市長という立場を超えて本学を応援してくださる思いをお聞かせしました。地元の材を使った木の温もりがある、新しい市長室でのインタビューを終えて、市長、香美市の人たちとも長いつきあひになったものだと痛感しました。外観だけでなく若くして活力ある市長の言動と行動に新庁舎と今後の香美市をダブらせながら、公立大学として新たな地域の在り方をともに考え、汗を流していきたいという思いを新たにしました。(浜田)



開学当時、旧土佐山田町役場(現香美市役所)は県内有数の老朽庁舎でしたが、今年5月、免震設計の新庁舎となり、県下有数の庁舎となりました。

応援団員 01 香美市長 門脇榎夫さん